

■ コース名：

マルチセクターで取り組む食を通じた栄養改善（英語圏・仏語圏）

（旧名：農業を通じた栄養改善）

■ 対象人材：

栄養改善事業を行う中央・地方政府機関の職員

マルチセクターでの取り組みを重視し、農業だけでなく、保健、水と衛生、教育関係者も対象とする。

■ 育成

実績：2017年度～2024年度まで 英語77人 仏語81人

研修コンセプト

■ 研修目標：

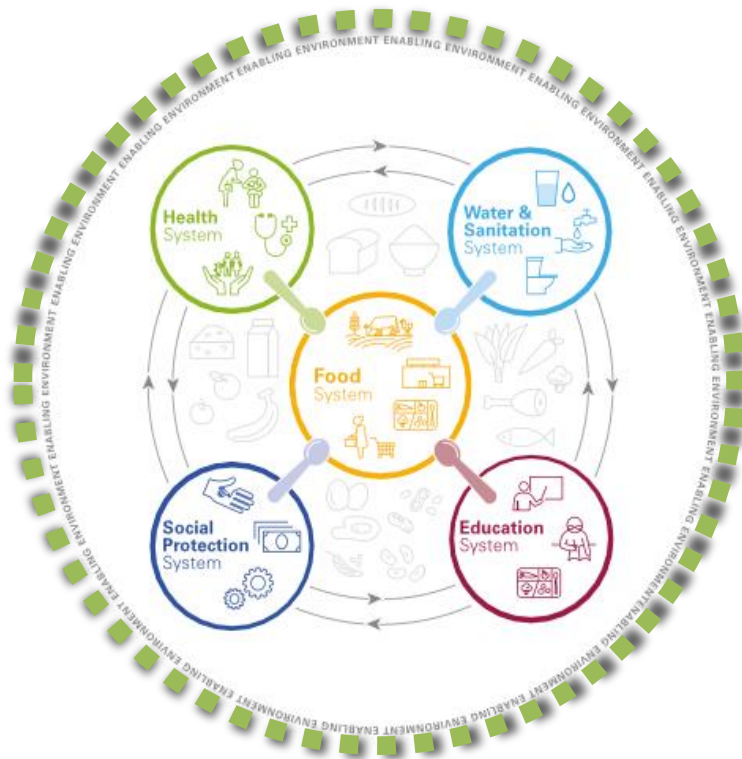
研修員がマルチセクターによる食を通じた栄養改善プログラムを計画、実施、管理するために必要な知識と能力を習得する。

■ 単元目標：

研修員は、研修を通じて、以下の1～5を達成することが期待される。

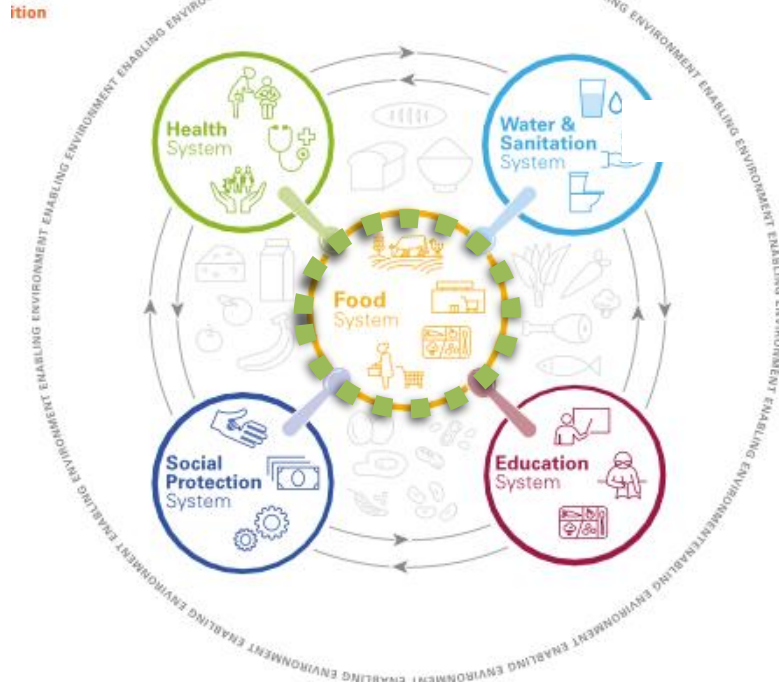
1. 研修員は自国の栄養改善における課題を明確化し、栄養不良に関して基礎的な説明ができる。
2. 研修員は食を通じた栄養改善に有効な方法、取り組みについて説明ができる。
3. 研修員はマルチセクトラルのアプローチ、取り組みについて説明ができる。
4. 研修員は栄養改善に向けた実際の活動や日本の経験について説明ができる。
5. 1から4を踏まえ、研修員は食を通じた栄養改善を実施・促進するためのアクションプランを、自身の職務範囲を鑑みて策定する。

単元目標Ⅰ：
研修員は自国の栄養改善における課題を明確化し、栄養不良に関して基礎的な説明ができる。



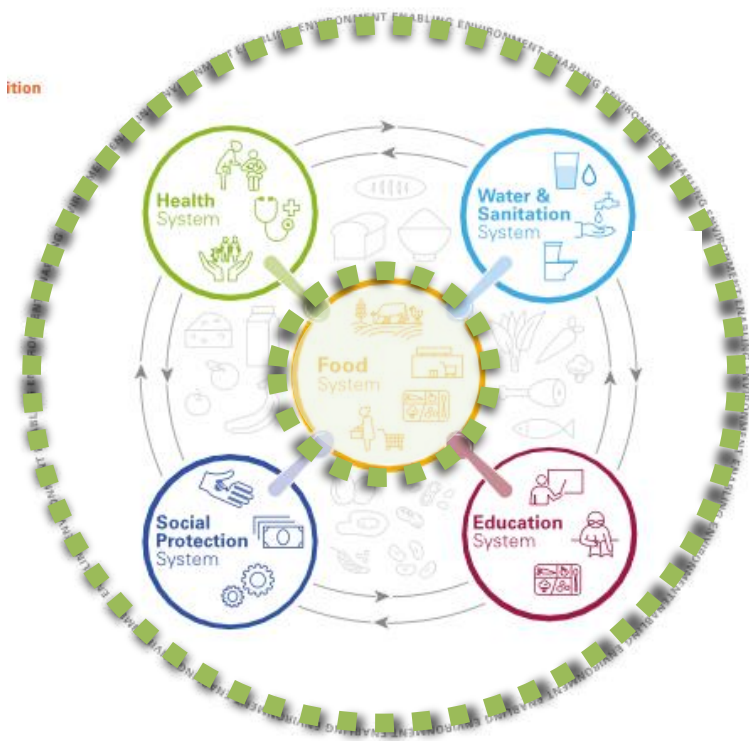
インセプションレポート発表会での活発な意見交換

単元目標 2： 研修員は食を通じた栄養改善に有効な方法、取り組みについて説明ができる。



遊休農地を活用して作られた有機栽培の作物を試食

単元目標 3 : 研修員はマルチセクトラルのアプローチ、取り組みについて説明ができる。



元生活改良普及員の方
から人々の生活に寄り
添った活動についてお
話を伺う（左）



学校給食の試食（右）

研修の様子（沖縄県石垣島）

単元目標4:

研修員は栄養改善に向けた実際の活動や
日本の経験について説明ができる。



住民と共に環境点検の演習（左）
地域を歩き回り、活用できるリソースや工夫点について学ぶとともに、住民の主体性を引き出すツールを実践。



家庭菜園見学（上）



ゼロマラリアの碑の前で建立者に想いを聴く（下）
マラリアによる貧血の予防のためのマルチセクトラルなアプローチについて学ぶ

研修の様子（沖縄県石垣島）



単元目標5:

1から4を踏まえ、研修員は食を通じた栄養改善を実施・促進するためのアクションプランを、自身の職務範囲を鑑みて策定する。



季節ごとの食や労働、病気などの変遷を可視化し、行動計画や介入計画を議論する（左）



アクションプラン発表会
（上）

ケニア在外補完研修
終了後の修了式
（下）



過去のアクションプランの例

国家・中央・ 政策策定レベル

- ・ 栄養に配慮した政策や戦略の推進およびアドボカシー
- ・ 栄養コンポーネントへの予算配分
- ・ ドナーや他セクターのコーディネーション
- ・ ガイドラインの策定
- ・ 栄養教育やToT教材・内容の策定およびレビュー

州・県・ プロジェクト マネージメントレベル

- ・ NFAで選定した高栄養価作物の推進
- ・ 既存プロジェクトのレビューおよび既存プロジェクトへの栄養コンポーネントの追加（農業プログラムに栄養教育や手洗いコンポーネントを含める等）
- ・ 現場レベルの普及員へのToTの改善
- ・ 既存プログラムの拡充
- ・ 州や県レベルでのマルチセクターアプローチ推進（ミーティングの実施、プロジェクトに他セクターの協力を仰ぐ等）

コミュニティ・ 現場レベル

- ・ 農村生活実態調査のためのツールや家庭訪問、小規模調査などを通じて実際把握
- ・ 地産作物の栄養価の見直し
- ・ 農民／女性グループの組織化や活性化
- ・ 栄養教育の強化
- ・ 高栄養価作物の家庭菜園や学校菜園での推進
- ・ 高栄養価作物を用いたレシピの開発
- ・ 食の加工や保存の推進
- ・ 女性の労働負荷削減
- ・ 農業普及サービスへ栽培手法だけでなく、消費手法やWASH活動の追加

帰国研修員の活躍例①

セネガル

Ms. CISS Aby
(アビーさん)



所属組織

国家栄養開発委員会
マタム地方局 局長
(研修参加当時はプロジェクト担当者)

研修参加年度

2021

研修参加後の
取り組み

- マタム地方局前任者（2020年度 帰国研修員 Abasse氏）の異動に伴い、局長に就任。ポストに自ら応募し、選定された。これまでは、農業あるいは地域開発プロジェクトに関する業務経験しかなかったが、研修に参加して、栄養課題やその解決策に対する理解が深まったことが、ポスト就任にも繋がった。
- スペインが支援する栄養改善プロジェクトのカウンターパートを務めている。特に女性への寄り添いにフォーカスをしており、地産の作物の加工や保存、また関連する衛生行動への研修を行なった。
- コミュニティの圃場を始動し、女性等に対して農業指導、牧畜管理委員会に対してWASHの研修や井戸の調査などを行った。

帰国研修員の活躍例②

マダガスカル

Ms. ANDRIAMAHAZOSOA
Norohanitra Elisette
(ヌルさん)



所属組織	アヌシ県栄養局 コミュニティ栄養プログラムマネージャー
研修参加年度	2020
研修参加後の 取り組み	- 乾燥が続いて大変な中にJICAマダガスカル事務所からの資金援助が決まった。その資金を活用して、アクション・プランを実施した。（JICAの資金援助は、コロナ禍で現地のプロジェクトが止まっているところ、乾燥が続く南部で何かできることないかと探していた状態だった） - マルチセクターでの取り組みは初めてだった。農業・畜産局に農業の仕方、家畜の育て方を説明してもらった。それは、今でも続けている。 - 研修で作成したアクション・プランをUNICEFやWFPと共有した。特にUNICEFはそれまで栄養直接介入しかしていなかったが、アクション・プランを基にして栄養間接介入をしてくれた。 - Nutrient-Focused Approachの考え方を通じて推奨作物を決めることができた。

帰国研修員の活躍例③

ザンビア

Ms. MULENGA Sarah
(サラさん)



所属組織

農業省
北部州 Luwing郡
Food and Nutrition Officer

研修参加年度

2020

研修参加後の
取り組み

- 生活改善アプローチを学んで、地域のリソースを活用することの重要性を認識。それまで調理講習会には農業省側から材料を提供していたところ、地域の人から材料を持ってきてもらうように切り替えた。今は地域の人を持ち寄りで、その地域・その時期にあるものを使った講習会を実施しているとのこと。そのため、家庭における再現性が高いこともインタビューの中で強調された。
- 学校給食の事例を学んで、学校で栄養教育ができるとアイデアをもらった。そこから小学校や高校での栄養教育（多様な食事の重要性）を家庭科の先生（調理実習、裁縫が主）と一緒に実践している。他セクターと一緒に活動をする際には、District（郡レベル）にある Food and Nutrition Committeeにて活動共有や調整をしている